

「心を輝かせて『とき』を重ねる」



24

年

末から毎日のように降り続いた雪が、あたり一面をすっぽりと覆いました。校舎の軒下近くには2メートル近い雪が積もっており、まるで遠い昔（私が小学生だったころ）に帰ったような、どこか懐かしさを感じます。何だかうきうき、でも、この雪、いつ止むのかなあ…と、時折、教室の窓から外を眺めて。

トントントン、トットトット。休み時間になると、かわいい足音が校舎内に響きます。「これから雪遊びをするの?」「はい」「運動場になあ、雪が高く積んであってな、そこで滑って遊ぶんで」…。スキーウェアに身を包んだ運動場へ、パツと駆け出す子どもたちの姿、いいなあ。輝いているなあ笑顔。幸せな『とき』を感じます。

さ

て、鶴ヶ岡小学校の1月は例年、【百人一首かるた大会】に始まり、続いて【校内後期人権週間】へと、取り組みが続きます。今回の人権週間（学校公開日を含む1月28日～2月4日まで）の児童会の取り組みのテーマは、心を

言葉や行動で表現しお互いを感じ合おうという主旨のもと、『やさしさが いっぱいつまった スイセンの花を育てよう』と決まりました。

児童会本部の児童が中心になって書き込み掲示するための専用のコーナーを設け、それぞれの児童が、「人にしてもらったやさしいこと」「人にしてあげたやさしいこと」「やさしい言葉」をその都度『スイセン日記』に記入し、壁面に白い花びらを飾りつける自主的な取り組みとなりました。期間中、スイセン日記には、続々と優しい心が書き綴られ、学年の枠を超えた優しい心遣いが感じられました。

社

会福祉協議会の方に協力いただき、2月1日に全校児童に実施した体験型人権学習では、「共に生きる人として大切なこと」それは、「伝えようという気持ち」「お互いのちよつとした気遣い」だと教わりました。子どもたちの心が輝く毎日であるように。その一助が担えるなら、こんな素敵な日々はありません。

（鶴ヶ岡小学校 人権教育主任

高室 弘子）



アユモドキが発見されたときの様子

たのは、河川環境やほ場整備などによる農業手法の変化が原因であると考えられています。

昨年のアユモドキの発見を機会に、これからは生物にやさしい川や水路を作っていくために、調査だけでなく、もっと積極的な取り組みをしていこうと考えています。

（環境課）



▲八木町で発見されたアユモドキ

将来、アユモドキが南丹市の川や水路で自然に泳いでいる姿を再び見られるかもしれないと、保護にかかわってきた市民の期待が膨らみます。



今回のエコジスト

廣瀬賢一さん
（八木町鳥羽）

10年ほど前から、八木町の子どもたち